

2015年度 関東U-18トレセン対抗戦

報告者:堀 達也(大宮武蔵野高等学校)

1.日程

2015年7月11日(土)~12日(日)

2.メンバー

	氏名	所属校		氏名	所属校
監督	堀 達也	大宮武蔵野	コーチ	長谷川 暁雄	久喜
			コーチ	江口 洋	入間向陽
GK	多胡 有季子(3)	山村学園	MF	新田 寿瑞 (3)	山村学園
GK	田中 優美 (3)	川口総合	MF	久保田 千優(3)	山村学園
DF	横地 秋音 (3)	久喜	MF	田中 天乃 (2)	南稜
DF	大屋 絵真 (3)	入間向陽	MF	村山 凜子 (2)	久喜
DF	儀間 美南 (3)	南稜	MF	贄田 瞳 (2)	山村学園
DF	秋山 チ工 (2)	浦和西	MF	設楽 実咲 (2)	昌平
DF	浅倉 あずさ(2)	川口総合	FW	円城寺 恭子 (1)	浦和実業
DF	小林 実紗 (2)	入間向陽	FW	山室 佑里花(3)	久喜
DF	藤田 佳乃 (2)	山村学園	FW	犬竹 麻琴 (3)	山村学園
MF	大島 彩香 (3)	久喜	FW	深谷 綾乃 (2)	入間向陽

3.事前トレーニング

5月24日(日) 大宮武蔵野高校 G

選考会①(ボールポゼッション)

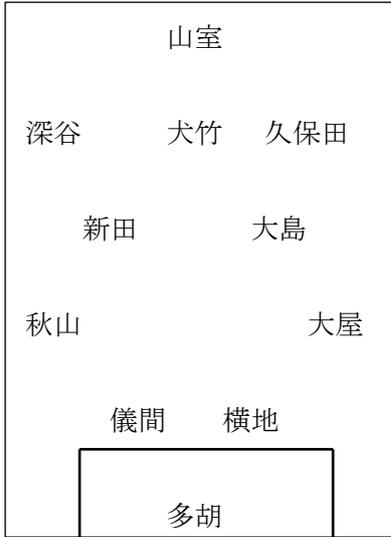
6月21日(日) 大宮武蔵野高校 G

選考会②(守備意識改善、ボールを奪う)

4.大会結果

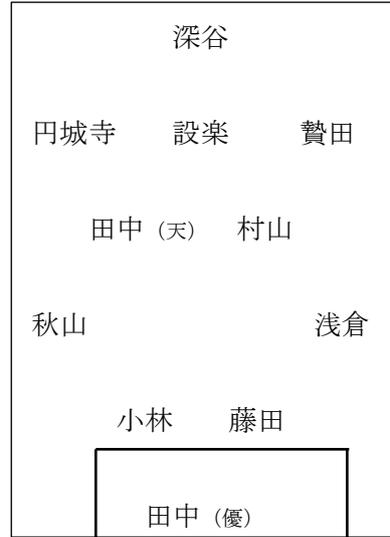
月 日	対戦相手		結果・得点者
7月11日(土)	予選①	千葉県	○ 4-1 (深谷、久保田、山室、村山)
	予選②	茨城県	○ 6-1 (横地、犬竹、大島2、山室、大屋)
7月12日(日)	予選③	栃木県	△ 3-3 (設楽、深谷、大島)
	決勝	神奈川県	● 1-4 (深谷)
※試合時間は60分			

VS 千葉県



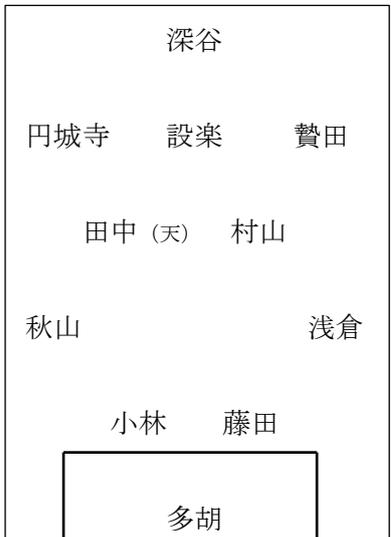
多胡⇒田中 (ゆ)
 久保田⇒贄田
 深谷⇒設楽
 秋山⇒小林
 新田⇒村山
 犬竹⇒田中 (天)
 横地⇒浅倉
 儀間⇒藤田
 大島⇒円城寺

VS 茨城県



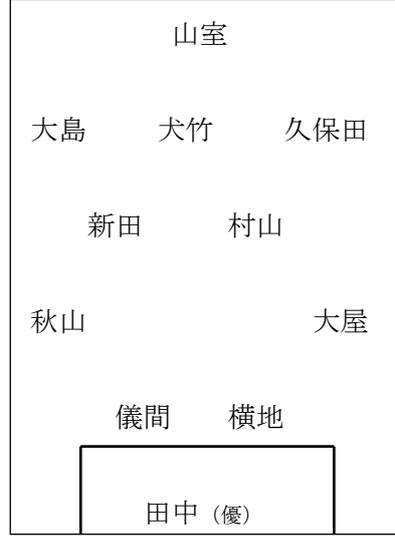
深谷⇒山室
 円城寺 ⇒
 久保田
 設楽⇒犬竹
 贄田⇒大屋
 田中⇒新田
 村山⇒大島
 小林⇒儀間
 藤田⇒横地
 田中⇒多胡

VS 栃木県



多胡⇒田中
 設楽⇒新田
 深谷⇒山室
 円城寺 ⇒
 久保田
 村山⇒犬竹
 田中⇒大島
 浅倉⇒設楽
 贄田⇒円城寺
 小林⇒大屋

VS 神奈川県



田中⇒多胡
 秋山⇒深谷
 村山⇒田中
 儀間⇒藤田
 久保田 ⇒
 贄田

5.総評

今回の遠征にあたり、2度の選考会を経て、メンバーをセレクトした。今回は、各チームからの推薦選手を選考会を経て選抜する形で選出した。そのため、選考会に参加していないチーム・選手は選考していない。ほとんどの選手は、2月のU-17トレセンの選手から選出されたが、数名今回初めて選出された選手もいた。3年生10名、1・2年生10名の20名で遠征に参加し、全勝での優勝を目指すことを最初の集合で確認した。

今回のトレセン大会にあたり、活動場所の確保はできるようになったが、セレクションに参加する人数が多いため、どうしても選考のためのゲームを中心とした組み立てになってしまい、事前にトレーニングができていないのが現状である。大会期間中のアップを兼ねたトレーニングの中でのみ意識をあわせたりすることになってしまうため、チームとしての統一された意識という部分では難しいものがあった。今後のトレセン活動での反省部分であり、今後のの検討課題としていきたい。しかし、トレセンとして集まって伸ばしていくのは、あくまで「個」の部分であり、チームとして成熟していくことではないので、トレーニングなどを通じて意識の部分を改善していくことができ、今後の成長につながっていくのであれば、成功といえる部分も大きいと感じている。また、今回の遠征に参加した特に下級生がこの遠征でさまざまな体験をしたことを通じて、今後飛躍的に成長していくきっかけになってくれると思う。

U-17トレセン大会のときの課題として攻守の切り替えをあげたが、今回もそれを継続しつつ、ボールを奪いきること、さらに奪ったボールをいかに早くゴールに結びつけるかということ課題として試合に取り組ませた。U-17トレセン大会に参加した選手たちとそうでない選手たちには大きく意識に差があり、奪いに行くタイミングで選手たちが連動できていない場面が多く見られた。これは、前回の総括にも書いたが、リーダーシップをとってコーチング出来る選手が少ないことが一番の原因である。さらに、ボールが近くにない選手たちのかかわり（予測）が甘く、ボールがどう展開されるか、どこに出されたくないかということ意識できていない場面が多く、簡単に相手にボールを保持されてしまう場面が多かった。失点の場面も、奪われてからのカウンターという場面が多かった。また、攻めているときの守備陣のポジショニング（リスクマネジメント）とともに、守っているときの攻撃選手の動き出しの遅さが目立った。決勝で対戦した神奈川県選抜は攻守ともに予測、動き出しともにタイミングがよく、対戦できたことで選手たちの良い参考になったことと思う。

オフェンス面では、積極的な仕掛けを促したため、多くの選手が仕掛けることを選択していた。しかし、ボールを奪われた選手が奪い返しにいくまでの時間が遅く、また判断なく仕掛けており、相手との駆け引き、数的優位を作るための相手に向かっての仕掛けなど、判断して仕掛ける、判断してパスを選択するという力をもっと身につけてほしい。

また、U-17トレセン時からの継続的課題として、キックの質の低さが目立った。セットプレーのキックはスピードあるボールを蹴る選手も出てきており少しは改善されてきているが、プレー中のキックは人工芝ピッチであることも影響してカバースピードが弱く奪われる場面が目立ったり、ロングボールやクリアボールの距離が出ないために、相手に跳ね返されてしまう場面が目立っていた。

対戦相手で特に印象に残ったチームは神奈川県で、技術の高さと、連動した攻守両面の動きを見せ、質の高いサッカーを展開していた。ボールを奪われてからの限定した守備と、奪ったボールをゴールに結びつけるかかわりと速さは、埼玉県では経験の出来ないものでもあった。このレベルの経験を財産として、今後チームに戻ったときに、関東大会以上で勝ち抜くための「基準」としてもらえれば、神奈川県と対戦した価値があり、今遠征に参加した意義の一つとなるだろう。

6.最後に

メンバーをセレクトして短期間にも関わらず、普段とは違うことに取り組むことに対して、前向きに取り組んでくれたことに大変感謝します。特に、3年生の選手たちは複数回遠征参加している選手たちが多く、普段はライバルとしてしのぎを削っている選手同士が、仲良くチームメイトとして活動している姿はとても頼もしく、またほほえましいものでした。最後の選手権大会では、各個人の今後の活躍を期待していきたいと思います。

本遠征を、大きな怪我なく無事に行うことができたことは、各所属チーム監督をはじめ、関係者の皆様、保護者の皆様のご協力のおかげです。感謝いたします。特に選手権大会に向けて調整を始めて行く時期や、そして考査直後のコンディションが整いにくい時期にもかかわらず、快く選手を派遣していただいたチーム関係者においては深くお礼申し上げます。選手たちが本遠征の経験をチームに還元し、今後ともチームの中心となって活躍し、埼玉県から関東、全国の舞台で活躍してくれることを期待し、トレセン大会の遠征報告とさせていただきます。